

答辞

長く厳しかった冬も終わりを告げ、梅の香りが春を運んでくる季節となりました。

本日は私たちのために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。そして、ご多忙の中、ご出席くださいましたご来賓の皆さま、保護者の皆さまに、卒業生一同心より御礼申し上げます。

期待と不安を抱きながらこの尚綱学院高等学校に入学したあの日から三年の月日が経ちました。私たちはこの三年間勉強や部活動、生徒会活動などたくさんのことに挑戦してきました。仲間とともに切磋琢磨し過ごした三年間は、決して忘れることのない素晴らしい三年であったと思います。

私の場合は、生徒会長に挑戦しました。

昨年度生徒会長という役職をいただいてから、生徒会や学校全体をより良いものに変えていくために先を見据えて考え、行動し、新しいことにも果敢に挑戦することを念頭に置き、活動してきました。しかし、挑戦するということは決して楽なことではありませんでした。リーダーというものは、先頭に立って集団をまとめるというイメージがありました。私には消極的なところがあるため、自分の性格とリーダーに対するイメージのギャップに苦しんだことがありました。

そんなとき「会長を見ていたら、リーダーというのは先頭に立って引っ張っていくタイプだけじゃなくて、後ろから支えるタイプもあると思った」という友人の言葉を聞いて、ギャップに苦しむ必要はなかったと気づきました。それまでは無意識にやっていたが、それからは意識的に後ろから支えていく生徒会長というものを追求していこうと思いました。その一環として、執行部員一人ひとりと向き合っ、得意なことや不得意なことを見つけ、それが生かせるような活動をしてきました。

このようなそれぞれの挑戦の中で、私たちは多くの方々と出会いました。人を陰から支える縁の下の力持ちのような人、相手のことを一番大切にする人、話を盛り上げるのが上手な人、人前に出て行動するのが得意な人、常に冷静に判断できる人。

共に挑戦した仲間は、自分にはない物事の見方や考え方を持っている素敵な人たちでした。ここでの出会いと思い出は、私たちにとって一生の宝物です。

さて私たちは十八歳になりました。これからは進学や就職などそれぞれの道を歩んでいきます。高校を卒業するまでの十八年間、私たちが道を踏み外すことなく、着実に一步一步前へ進むことができたのは、どんな時でも家族という存在が根底にあったからこそです。毎日欠かさず作ってくれたお弁当の味は、大人になっても忘れないことでしょう。思春期という感情の波に押し流されてしまっても、ずっとそばで見守り続けてくれました。時に厳しく、時に優しく、しかし、常に大きな愛を持って共に戦い続けてくれた唯一無二の存在です。家族の支えがなければ、今日という日を迎えることはできませんでした。

また、担任の先生や教科担当の先生、部活動の顧問や委員会の先生など、たくさんの先生方にお世話になりました。悩みがあるときに相談に乗っていただき、またテスト前には嫌な

顔一つせずていねいに教えてくださいました。こんな時でなければ、照れくさくて言えないような気がするので、この場を借りてお礼を言わせてください。

私たちを支えてくれた皆さん、ありがとうございました。

今から一年前、私はこの礼拝堂で先輩方の卒業を見送りました。卒業式を終え、クラスに戻った先輩方がクラスメートと思い出を語り合い、担任の先生からの言葉を聞いて感動している光景を見ながら、一年後には自分がこうなるのかと、ぼんやりそう思っていました。一年という時間は驚くほどあっという間に過ぎていき、今では見送られる側の卒業生になりました。

「その人の人生が楽しかったかどうかは、どの人が亡くなる間際にしかわからない」と言いますが、それと同じく高校生活が楽しかったかどうかは卒業の間際にしかわかりません。今、私たちが過ごした高校生活のどこを切り取って思い出してみても、非常に素晴らしかったと思います。そして、充実した三年間だったと胸を張って言うことができます。

一・二年生のみなさん、皆さんが高校生活を終えるとき、この三年間が本当に楽しかったと思えるよう、一瞬一瞬を大切に日々の生活を送ってください。

最後になりましたが、後輩の皆様のご活躍と今後の尚絅学院高等学校のますますのご発展を祈りつつ、答辞の言葉とさせていただきます。

二〇一八年三月一日

卒業生代表 S. R

